



press release

For Immediate Release

対日直接投資は、日本経済再生の鍵 FOREIGN DIRECT INVESTMENT (FDI): KEY TO JAPAN'S REVITALIZATION

October 29, 2003

英語正文

在日米国商工会議所 / **the american chamber of commerce in japan**
www.accj.or.jp / www.livinginjapan.info

〒106-0041 東京都港区麻布台 2-4-5 メソニック39mtビル10階
masonic 39 mt bldg. 10f, 2-4-5 azabudai, minato-ku, tokyo 106-0041
phone: (+81) 3 3433 5381, fax: (+81) 3 3433 8454

accj press release

TOKYO, JAPAN, October 29, 2003 - The American Chamber of Commerce in Japan (ACCJ) today announced the findings of a landmark report by economic Professors Kyoji Fukao of Hitotsubashi University and Tomofumi Amano of Toyo University. The Fukao Report is the first to be based on detailed empirical analysis of the actual state of foreign direct investment (FDI) and its critical benefits for the Japanese economy.

The ACCJ commissioned the study in response to Prime Minister Junichiro Koizumi's challenge to double Japan's cumulative stock of inward FDI within five years. The ACCJ also released From Goals to Reality: FDI Policy in Japan, a general policy document based on the Fukao Report's findings.

Professor Fukao said: "Japan no longer can rely on its own capital and technological resources to grow and prosper. As in other countries, FDI is a key to Japan's sustained economic revival."

Major conclusions in the Fukao Report include:

- The high volume of Japanese investment overseas - which now drains Japan of 3.5 trln yen per year - is not being offset by inward investment from abroad, resulting in hollowing out of the economy.
- Japan is far behind in the competition to attract world capital flows. At approximately 1% of GDP, inward FDI for Japan is only 1/11th that of the U.S. and 1/22th of Germany, and is far lower than China or South Korea.
- Foreign affiliated companies have roughly 10% higher productivity than domestic companies. If inward FDI were to expand to the level of other OECD countries, increased capital investment of

2003年10月29日(東京) - 在日米国商工会議所(ACCJ)は29日、対日直接投資の経済効果や促進策等についての実証研究レポート「対日直接投資と日本経済」(深尾レポート)を発表した。

ACCJは、今年1月の小泉首相の施政方針演説における、2008年までに海外からの対日直接投資を倍増するという決意に呼応し、4月に、対日直接投資(FDI)タスクフォースを設立した。同タスクフォースは、日本政府が掲げた目標達成に貢献することを目指し、詳細は経済分析に裏付けされた実証研究レポートと政策提言の策定を柱とする「ACCJ対日直接投資(FDI)プロジェクト」を開始した。同プロジェクトは、合計29の民間企業、地方自治体及び日本貿易振興機構(JETRO)等のスポンサーにより支援されている。

FDIタスクフォースでは、同プロジェクトの中核となる実証研究レポートは、第三者による中立的且つ包括的なものであるべきだと考え、FDIが日本経済に与える影響などについて広範な研究を行っている一橋大学経済研究所・経済産業研究所の深尾京司教授、ならびに東洋大学経営学部経営学科の天野論文専任講師に協力を依頼した。

両研究者は、レポート作成に際し、対日直接投資が他国の対内投資と比較して極端に少ない原因に関する分析、投資促進政策に関する数量的な事前・事後評価、外資系企業のプレゼンスや生産性に関する統計や分析。等が驚くほど不足しているとの問題意識から、対日投資に関する様々な問題について広範囲におよぶ実証研究を行った。その結果、1)外資系企業の生産性は日本企業よりも高い、2)対日M&A投資先企業の生産性は投資後、改善している、3)したがって対日直接投資拡大は、生産性上昇や設備投資増加を通じて、日本が経済停滞から脱出するための鍵となりうる、4)この観点からは、対日投資倍増という小泉首相の目標は高く評価できる、5)しかし、この目標達成のためには、

accj press release

18.8 trln yen and improved productivity would raise GDP by 7.5 trln yen, or approximately 1.5%.

- Employment due to FDI has grown almost 50% in the past four years.
- Deregulation would raise employment by foreign affiliate firms by 54%.
- Privatization of public corporations would expand non-manufacturing employment by foreign firms 43% compared to 1996.

The report also dispels many misconceptions about FDI in Japan that underlie the negative attitudes against foreign investment in Japan such as:

- M&A rather than “greenfield” investment, accounts for more than 80% of FDI in all developed countries, including Japan.
- Domestic Japanese firms account for the vast majority of M&A in Japan.
- Private equity funds (sometimes accused of being “vulture” funds) account for only 5% of all M&A by foreign companies in Japan.
- Unlike portfolio investment, FDI actually brings a long-term commitment to the Japanese market; it cannot and does not exit easily.
- FDI brings new and better technology to Japan—it does not “steal” Japanese technology.
- In fact, because of government deficits, Japan critically needs to attract more private investment from all sources, both foreign and domestic. The country is caught in a cycle of low productivity, low investment, and deflation.
- The benefits of FDI do not flow only to Tokyo. Although 90% of headquarters are in Tokyo, more than 50% of the jobs are outside of Tokyo, Kanagawa, and Osaka.

非製造業における参入障壁の撤廃や、対日M&Aに関する障害の除去等、抜本的な促進策が必要であり、情報発信といった現行の小手先の政策では首相の目標を達成することは難しい、等が明らかとなった。

この深尾レポートでは、まず、対日直接投資における現状分析を行い、対日投資残高対GDP比が米国の11分の1、ドイツの22分の1に過ぎず、韓国や中国と比較しても極めて少ないことを指摘している。また、米国等、他の先進諸国では外資系企業が雇用、設備投資に重要な貢献をしており、対外直接投資による経営資源の流出を活発な対内直接投資がかなりの程度相殺しているのに対し、日本では、対日直接投資が少なすぎるために対外直接投資による空洞化を相殺できない特殊性にも着目している。

なお、日本における外資系企業の雇用増加への貢献は、あまり広く知られていないが、90年代後半の対日投資ブームにより外資系企業の雇用は、96年の48.5万人から、2001年の69.4万人へと5年間で5割弱の拡大が見られた。また、深尾レポートの試算では、仮に今後大幅な規制緩和・民営化が行われれば、非製造業における外資系企業の雇用はそれぞれ5割程度の拡大（規制緩和：54%、公的事業所民営化：43%）が見込まれ、対日直接投資による雇用創出効果の大きさが改めて実証された。

深尾教授は、「経済のグローバル化が進み、世界規模での企業誘致競争が行われるようになった今日、日本国民の豊かさは、日本企業を含めた世界のグローバル企業をいかに日本に誘致できるかにかかっている。仮に他の先進国並みに対日直接投資を拡大できれば、生産性の上昇により、18.8兆円の民間設備投資増(累計値)と7.5兆円のGDP拡大(恒久的変化)などの利益が得られる、との結果を得た。対日投資拡大策の成否に懸かっている国民の利益は大きいといえよう。こうした状況下で、対外直接投資が対内直接

accj press release

“The professors assert that achieving the government’s goal of doubling FDI in five years requires going beyond steps taken so far, such as PR, providing investment information, and special zones. Major reforms are essential, such as accelerated privatization and deregulation, and allowing cross-border stock swaps for M&A”, said Nicholas Benes, Chairman of the FDI task force.

The Fukao Report also includes case studies of successful investments by P&G, Nissan Motors, Starbucks Coffee Japan, American Family Life Insurance, GE Japan, IBM, and Kansai Sawayaka Bank.

About ACCJ

Established in 1948, the American Chamber of Commerce in Japan (ACCJ) has grown into Japan’s most influential organization representing the interests of international businesses in Japan, with close to 3,200 individual members representing more than 40 countries and 1,400 companies. The ACCJ promotes commerce between the United States and Japan, supports measures to benefit and protect the interests of U.S. companies, and presents a variety of programs that keep Chamber members abreast of current business practices and trends. For more information, visit: <http://www.accj.or.jp>

Media Contacts

Emi Ogawa
Media Relations Officer, ACCJ
Tel: 03-3433-6542
E-mail: eogawa@accj.or.jp

投資を大幅に上回るという現在日本が直面している現象は、グローバルな企業誘致競争において、日本が敗北しつつあることを意味している」と警鐘を鳴らしている。

また、深尾教授は、「対日投資については多くの誤解が存在し、否定的な印象が流布されている。十分な根拠無しに主張されるこれらの危惧が正当なものか否か実証研究で確認することは、対日投資に関してどのような政策が望ましいかを考えていく上でも、また対日投資の阻害要因となっている可能性のある外資排斥的な一部の国民感情を変えていく上でも、重要な意味を持つ」としている。

同プロジェクトを推進してきたFDIタスクフォースのニコラス・ベネッシュ委員長は、日本政府の“今後5年間に日本への海外からの直接投資を倍増する”という目標について触れ、「深尾レポートによると、現在のペースのまま今後5年間投資を受け入れたとしても、投資累積額は5年間で4兆1,500億円と、目標の9兆4,000億円の半分にも満たない計算になる。従って、新規分野における大胆な規制緩和や、今日の対日直接投資の主流となっているM&A投資拡大の足かせになっている商法・税法上の障害要因を取り除く政策を実行しない限り、日本政府の目標達成は危ういとの検証結果が出ている。我々は、同レポートにより日本の対内直接投資の実状を広め、対内投資に対する恐れや否定的な印象、さらには多くの誤解といったものを取り除くことで、対内直接投資を促進するための日本の政策がより効果的に進められ、日本経済、社会に貢献できることを切望する」と述べた。

ACCJでは、同レポートと併せて、政策提言書「ゴール実現に向けて」を発表した。同提言書では、深尾レポートの結論に基づき、外国投資が国内経済に与える影響と、現在までの日本のFDI実績に関わる分析、および日本でのFDIに関する俗説のいくつかについての考察がなされている。さらに、ACCJでは今後数ヶ月間のうちに、深尾レポートで結論づけられた、海外からの投資を増やすために不可欠な特定分

accj press release

野に関する、より詳細な政策提言レポートについても発表を予定している。

なお、レポートには、深尾教授、天野講師による対日直接投資に関する広範なデータの調査・分析に加え、1,400社におよぶACCJの会員企業の中から、対日直接投資の代表的な成功例としてP&G、日産自動車、スターバックス コーヒー ジャパン、アメリカンファミリー生命保険、GEジャパン、IBM、関西さわやか銀行等を選び、聞き取り調査を行った結果も併せて本文に盛り込まれている。

－在日米国商工会議所について－

在日米国商工会議所(ACCJ)は、米国企業40社により1948年に設立され、日本でビジネスを行う会員企業を支援する活動を55年にわたり展開してきた。現在は1,400社を代表する会員約3,200名を擁し、東京、名古屋、大阪に事務所を置き、日本の三大重要経済圏をカバーしている。

【お問い合わせ】

在日米国商工会議所

広報担当 小川

(Tel: 3433-6542; email: eogawa@accj.or.jp)